

「ウォーン、ウォーン！」

森からニホンオオカミの遠吠えがきこえてきました。  
パンダがきたことを遠くのなかまにしらせているのです。

「でもね、あるときイヌをつれたスペイン人や  
オランダ人が日本にやってきて、  
わるい病気がはやったの。  
狂犬病やジステンパーっていう病気。  
なかまはバタバタ死んでいった。

そのころから森の木がきられ、  
えもののイノシシや  
シカがへってねえ」

「わたしたちは日本でいちばんつよいどうぶつだったのよ。

わたしたちはむれをつくって畑をあらすイノシシや  
シカをえものにしてたの。だから人間たちからは  
かんしゃされたものよ。大神様、大神様ってね。

すばらしいことでしょ？ 神様あつかいなんだから。  
たいしたもんでしょ！」

「ほくは、かわいらしいっていわれるけど、  
かんしゃされたことなんかないなあ」

とパンダはつぶやきました。

「それで、しかたなく里におりていって、

ウマやウシをちょうだいしたわけ。そうしたら、めのかたきにされて、  
とうとう絶滅しちゃったのよ」

「人間っておろかだね」

そのとき、スピーカーからアナウンスが  
ながれてきました。

「パーティがはじまります。みなさん、おあつまりください」